



# 「社会参加章」受章事例

## 「油川駅応援実行委員会」

### ～あずましく暮らせるまちづくり～

#### ■本編

「油川駅応援実行委員会」  
あずましく暮らせる町づくり  
～つながる駅とまち～

1～8ページ

#### ■地域包括支援センター 一覧

～お気軽にご相談ください  
地域包括支援センター～

9ページ



青森市

【社会参加章とは】内閣府では、地域で社会参加活動を積極的に行っている高齢者のグループ等（「社会参加活動事例」）を募集・選考しています。選考された事例については、内閣府ホームページ等で紹介されるとともに社会参加章が交付されます。



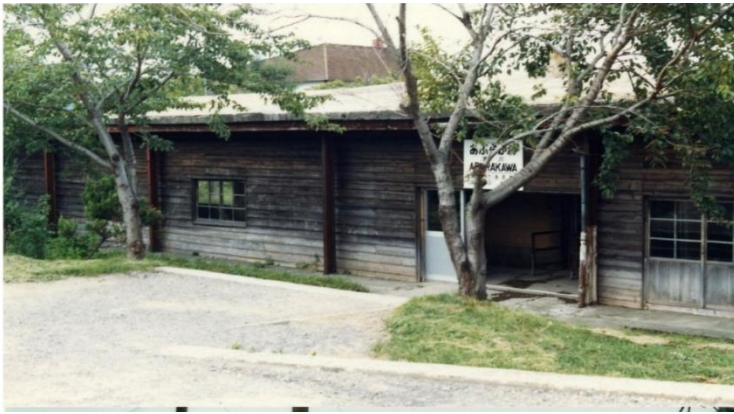


あずましく暮らせる町づくり  
～つながる駅とまち～

油川駅の歴史  
昭和時代から現在まで



新駅舎完成時



昭和時代の油川駅



油川郵便局完成時

地域の絆と  
歴史を紡ぐ油川駅

油川駅は、青森市大字羽白字沢田にある、東日本旅客鉄道（ＪＲ東日本）津軽線の駅である。

駅は昭和２６年１２月５日に日本国有鉄道の駅として開業し、平成２９年６月６日に駅舎がリニューアルされた。

以前は、駅周辺にスーパーや配送会社が無く、油川駅にある売店での買い物や配送を目的に多くの利用者が賑わっていた。



油川駅について話してくるのは、油川駅応援実行委員会の柿崎実行委員長、熊谷副実行委員長、月折実行委員。

柿崎実行委員長と熊谷副実行委員長は、駅のトイレ掃除や見守り等を行っている。

月折実行委員は、友人に勧められたことがきっかけで、約２０年もの間、月２回ほど、駅の待合室に花を生けている。

皆学生時代の通学や、家族との外出などそれぞれに油川駅の思い出を語る。



# あずましく暮らせる町づくり ～つながる駅とまち～

## 実行委員の方々の活動



～月折実行委員が生けている花～



## きつかけは駅の無人化に伴うトイレの使用中止 地域住民のためになんとかしなければと立ち上がった

令和5年3月、油川駅が無人化になることが決まった。無人化に伴い、トイレも使用できなくなると聞きつけた柿崎実行委員長が、駅を利用して地域の高校生や住民が困ることを予想し、JR東日本とトイレの使用について何度も話し合いを重ねた。

その結果、管理を住民が行うことでトイレの廃止を免れた。

管理を行うために、それまで自主的に駅の見守りをしてきた熊谷副実行委員長や駅の待合室に花を生けていた月折実行委員を始め、地域住民に声がけを行い、「油川駅応援実行委員会」を立ち上げた。

油川駅応援実行委員会が立ち上がった当初は、柿崎実行委員長と熊谷副実行委員長2人でトイレ掃除を行っていた。

雨や雪などの悪天候でも関係なく、365日始発の朝6時頃に合わせ掃除を行う。

トイレの管理に必要な掃除用品やトイレトペーパー等の備品は、地域住民や、外ヶ浜ライオンズクラブより寄付を受けている。

このほか、美化活動として、ホームの花壇では、医療法人白鷗会から寄贈された草花を育てている。

月折実行委員は、無人駅となっても生け花を駅の待合室へ飾ることを続けており、他の実行委員も、駅の見守りや、実行委員会に向け、安全衛生面の助言を行ったりと、それぞれ出来る範囲で役割を持ち活動を行っている。



## あずましく暮らせる町づくり ～つながる駅とまち～

雨の中でも活動してくれる  
青森第一高等養護学校の生徒たち

落書き対策の検討や  
トイレ掃除を行う  
青森北高等学校の生徒たち



### 油川駅を中心とした地域と学生の絆

#### ～未来をつなぐ仲間たち～

その後、油川駅応援実行委員会に沢山の仲間が増えていく。

#### ～青森第一高等養護学校～

まず初めに加わったのは、青森第一高等養護学校の生徒たち。柿崎実行委員長から声をかけ、トイレ掃除を行ってくださることとなった。

生徒たちは、掃除用具を持参し、15分かけ学校から駅まで歩いて向かう。トイレ掃除が終われば、駅の待合室やガラスの掃除やゴミ拾いなども行ってくれる。とても丁寧に掃除を行い、「綺麗に掃除できたね」と褒めるとニコッと笑いながら喜んでくれる。

【P7～8 青森第一高等養護学校特集ページ】

それから、青森北高等学校、

油川中学校の生徒たちも駅の清掃活動に参加してくれるようになった。

#### ～青森北高等学校～

青森北高等学校は、生徒指導の先生の協力のもと、油川駅について歴史を学んでから掃除に参加してくれた。

毎週火曜日と木曜日に各部活の生徒が交代でトイレ掃除を行っている。生徒同士で楽しそうに掃除を行い、実行委員が見落としがちな手洗い場なども綺麗に掃除してくれている。

トイレ掃除以外にも、生徒同士で駅のホーム待合室の落書きに対して対策を検討し合うなど、普段利用する油川駅のことを大切に思ってくれているのが伝わると柿崎実行委員長は語る。



## あずましく暮らせる町づくり ～つながる駅とまち～

多くの油川中学校の生徒が集まり、  
ごみ拾いを行った



### 油川中学校

油川中学校は、「6人〜10人程度の参加を」との声掛けに対し、30人を超える生徒が集まってくれた。

柿崎実行委員長から生徒たちへ油川駅の歴史を説明した後、油川駅ホーム下、油川駅通り伝馬側と西田沢側にそれぞれ分かれ、ごみ拾いを行った。

好天とは言えない天気ではあったが、欠席する生徒はおらず、皆楽しそうに沢山のごみ拾いをしてくれた。

その後、油川駅以外のごみ拾いのボランティアでも中学生と会うことがあったと柿崎実行委員長。活動後には一緒に写真を撮ったりなど交流を続けている。

### 油川駅から広がる輪

油川駅を中心とし、油川駅応援実行委員会からどんな人の輪が大きくなっていくことに対し熊谷副実行委員長は

「学生が活動してくれたときはすごく喜んだ。仲間が増えて嬉しかった。学生たちはとてもまてい（丁寧）にやってくれる。ありがたい。」と笑顔をこぼす。

月折実行委員も「熊谷副実行委員長と同じ気持ちでした。

仕事で他の無人駅を見ることがあるけど、油川駅はとてもきれい。場所によっては、ゴミやすずがあり汚れている。熊谷さんたちがいなければ油川駅もこうなっているのかもしれないと思うと、熊谷さんたちには頭が下がります。」と話す。

油川駅で清掃を始めたことにより、別の無人駅でも清掃をするようになったところがあるという。「やらされている感があると続かない。駅を大切にしたいという思いがあるから続く」と柿崎実行委員長は熱いまなざしで語る。



## あずましく暮らせる町づくり ～つながる駅とまち～



### 社会参加章受章と

### 地域の絆

こうした活動を行っている油川駅応援実行委員会は、地域で社会参加を積極的に進めている高齢者のグループとして、令和6年度に内閣府より「社会参加章」を受章した。

令和6年9月には、青森市役所本庁舎にて伝達式を行った。

式には、柿崎実行委員長、熊谷副実行委員長、月折実行委員のほか、青森第一高等養護学校、青森北高等学校の生徒たちや医療法人白鷗会、青森市地域包括支援センターのぎわも出席し、市長へこれまでの活動やこれからの意気込みについて強く語った。

### 油川駅と共に歩む未来

油川駅は、令和7年春に、青森県内で初めて、郵便局が駅に入り「油川郵便局」として駅と郵便局が一体化された。

駅の工事のため、令和6年9月から油川駅応援実行委員会の活動は中断していたが、JRや郵便局と相談し、活動を再開した。

これからについて、柿崎実行委員長は「郵便局と一体化になる前に比べれば回数は減ったが、今後もトイレ掃除を続けていく。回数を重ねていくと、駅の利用者から「ご苦勞様」と声をかけられることもあった。そういう声掛けがやりがいにつながる。嫌々やっていたもうまくいかない。思いがあるからこそ続けることができる」と話す。



## あずましく暮らせる町づくり ～つながる駅とまち～

駅を利用する子どもたちと  
月折実行委員が生けた花



熊谷副実行委員長は、「油川駅に対してとても愛着がある。これまでめんどくさいと思っただことはなかった。トイレ掃除をしなくなってから、がだらつとしてしまつて（気が緩んでしまつて）体調が優れなくなることもあった。いつまでも元気でいるために、早くトイレ掃除を再開したかった。」と笑顔で語る。

月折実行委員も「油川で生まれて、親やおじいちゃんおばあちゃんから油川の歴史を沢山教えてもらった。

花を生けるのが億劫に感じる時もあるが、花をかえるとすっきりする。そのすっきりする気持ち、20年間続けてこれた秘訣だと思います。

駅をよく使う学生たちが、お花を見て少しでも気持ちがよくなれば、と考えてこれからも続けていきたいです」と微笑みながら話す。

油川駅の無人化によるトイレの閉鎖がきっかけで始まった油川駅応援実行委員会の活動は大きな輪となり、地域の絆を深めた。

油川駅は、単なる交通の拠点にとどまらず、地域の心を繋ぐ場所として、新たな価値を生み出し続ける。





あずましく暮らせる町づくり  
～つながる駅とまち～



青森県立 青森第一高等養護学校

〒038-0057 青森県青森市大字西田沢浜田 368

TEL : 017-788-0571 FAX : 017-788-0539



テイネイ製品の数々



油川市民センターまつりでの  
テイネイ製品販売学習

## 青森第一高等養護学校の紹介

本校は、高等部単独の肢体不自由特別支援学校として、昭和51年4月、青森市西田沢浜田に青森県立青森第三養護学校の校名で開校し、平成6年4月に現在の校名となった。平成19年に知的障がい教育の普通科が設置され、令和8年度には創立50周年を迎える。令和7年度は、肢体不自由、知的障がいあわせて35名の生徒が在籍している。

### 本校の教育活動について

本校では以前から、卒業後、社会に出て働いたり生活したりしていく力を培うことをねらい、学習活動の一環として、木工、織物、皮革、和紙などを使った製品製作や、清掃、農業などの活動を行っている。製作している製品については、平成26年に本校独自の製品ブランド「テイネイ」を立ち上げた。生徒の実態にあわせ、一つ一つ丁寧に作られた製品「テイネイ」、生徒の手仕事の喜びがふれる製品「テ、イネ」をコンセ

プトとしている。製作された「テイネイ」製品は、学校祭「めいせい祭」や油川市民センターまつりなどの場で、生徒が販売学習を行っている。



### 清掃活動について

県内の特別支援学校高等部生徒が参加する「青森県特別支援学校技能検定・発表会」の検定種目の中に清掃分野の検定がある。主に知的障がい教育部の生徒が、この検定での級の取得や、働く力の向上を目指して、清掃技術の習得に日々励んでいる。

### 技能検定・発表会 清掃分野の検定の様子





青森県立青森第一高等養護学校の  
生徒による油川駅の清掃活動



### 油川駅清掃について

本校生徒による油川駅清掃は、本校の学校運営協議会委員である油川駅応援実行委員会の柿崎孝治様と連携し、令和5年度より活動を開始した。年2回ほどではあるが、普段の学習活動で習得した清掃技術を生かし、待合室のベンチや窓ガラス、トイレなどを清掃している。活動を通して、社会の一員として地域に貢献しようとする気持ちを育むことができ、また、周囲から感謝される経験を積み重ねることができ、自己有用感を高めることができ、将来の社会自立に向けてとても有意義な活動となっている。令和6年度は、7月に知的障がい教育部の2年生6名が清掃活動を行った。青森市の担当者や柿崎様も立ち会いの下、生徒たちは、学校の学習活動で学んだことを思い出しながら、待合室のベンチをぞうきんで拭いたり、スクイージーという道具を使って窓ガラスを拭いたりした。1時間ほどかけて、待合室やトイレの清掃を終え、心地よい疲労感と晴れやかな気持ちで学校へ戻って行った。

### 生徒の感想

初めての油川駅の清掃でしたが、窓をスクイージーで水拭きしてから空拭きをしてイスなどを綺麗にすることができました。学校の清掃で生かしたいです。

学校での経験を生かして窓を丁寧に拭くことができました。また、集中して取り組むことができました。次も丁寧に清掃したいです。

入り口の上の窓に虫がいたので、丁寧に綺麗に水拭きを頑張りました。今度油川駅を清掃する時は、みんなが駅を気持ちよく利用できるような、もっとキレイに掃除したいです。

最初はやりかたを忘れそうでしたが、友達のやりかたを見ながら取り組むことができました。来年は、ウオッシュャーを綺麗にかけられるようにします。

3回目の油川駅清掃で、わからない人がいたら教えたり、窓を丁寧に拭くなど、集中力を切らさずに出来ました。



高齢者とその家族の 介護、健康、医療、福祉 等についての 地域の相談窓口

## 青森市地域包括支援センター

介護予防についての相談や生活上の困りごと、本人または家族の介護の悩みなど、高齢者に関する相談はお気軽に、お住まいの地域を担当する地域包括支援センターへ。

主任ケアマネジャー、社会福祉士、保健師の専門職が、互いに協力しながら、高齢者をチームで支えます。

名称	住所	電話番号 FAX番号	担当地区
地域包括支援 センター <b>おきだて</b>	富田5丁目 18-3	(電話) 017-761-4580 (FAX) 017-761-4571	柳川、千富町1丁目、沖館、富田、新田、篠田、千刈、久須志
地域包括支援 センター <b>すずかけ</b>	里見2丁目 13-1	(電話) 017-761-7111 (FAX) 017-761-7115	西滝、里見、三内、岩渡、新城平岡、石江、三好
<b>中央</b> 地域包括 支援センター	新町2丁目1-8	(電話) 017-723-9111 (FAX) 017-723-9112	堤町、青柳、橋本、中央、本町、松原、勝田、長島、古川、新町、 安方、奥野
<b>東青森</b> 地域 包括支援センター	浜館6丁目4-5	(電話) 017-765-3351 (FAX) 017-765-3352	はまなす、けやき、岡造道、小柳、古館、松森2・3丁目、佃2・3丁目、 中佃、南佃、虹ヶ丘、浜館1～6丁目、自由ヶ丘
<b>南</b> 地域包括 支援センター	妙見3丁目 11-14	(電話) 017-728-3451 (FAX) 017-728-3452	筒井、幸畑、田茂木野、桜川（1丁目を除く）、横内、雲谷、四ツ石、 大矢沢、野尻、合子沢、新町野、問屋町、卸町、妙見
<b>東部</b> 地域包括 支援センター	矢田前字弥生 田47-2	(電話) 017-726-5288 (FAX) 017-726-9600	野内、久栗坂、浅虫、宮田、馬屋尻、三本木、滝沢、矢田、矢作、 本泉、原別、平新田、後沼、泉野、矢田前、八幡林、戸崎、諏訪沢、 築木館、桑原、戸山、沢山、駒込、浜館（1～6丁目を除く）、 田屋敷、赤坂、蛸沢、月見野
<b>おおの</b> 地域包括 支援センター	東大野2丁目 1-10	(電話) 017-711-7475 (FAX) 017-711-7329	桂木、緑、青葉、北金沢1丁目、金沢1・3～4丁目、旭町、浦町、 浜田、東大野、西大野、大野
地域包括支援 センター <b>寿永</b>	高田字川瀬 187-14	(電話) 017-739-6711 (FAX) 017-739-6747	北金沢2丁目、金沢2・5丁目、千富町2丁目、小畑沢、細越、安田、 浪館前田、浪館、牛館、第二問屋町、高田、大谷、小館、入内、 野沢、荒川、八ツ役、金浜、大別内、野木、上野
地域包括支援 センター <b>のざわ</b>	羽白字野木和 45	(電話) 017-763-2255 (FAX) 017-787-3088	孫内、新城山田、新城福田、新城天田内、岡町、戸門、鶴ヶ坂、 油川、羽白、西田沢、飛鳥、瀬戸子、奥内、前田、清水、内真部、 四戸橋、後湯、六枚橋、小橋、左堰
地域包括支援 センター <b>みちのく</b>	港町3丁目6-3	(電話) 017-765-0892 (FAX) 017-765-0893	浪打、港町、茶屋町、栄町、合浦、花園、造道、東造道、八重田、 松森1丁目、佃1丁目、桜川1丁目
地域包括支援 センター <b>浪岡</b>	浪岡大字浪岡 字稲村274	(電話) 0172-69-1117 (FAX) 0172-62-4116	浪岡、五本松、王余魚沢、女鹿沢、下十川、増館、樽沢、銀、郷山前、 吉野田、下石川、相沢、浪岡福田、高屋敷、徳才子、大釈迦、長沼、 北中野、吉内、本郷、杉沢、細野